

議決権行使レポート

証券コード **6331**

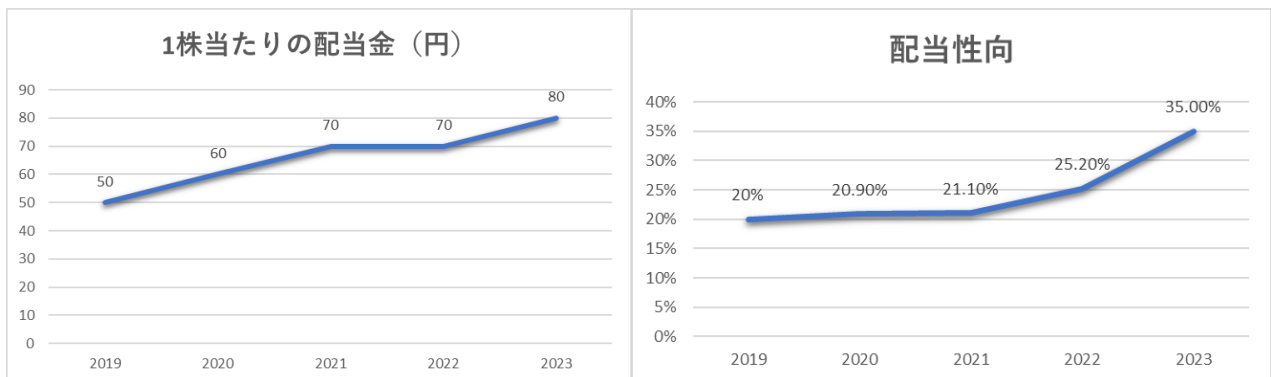
会社名 **三菱化工機株式会社**

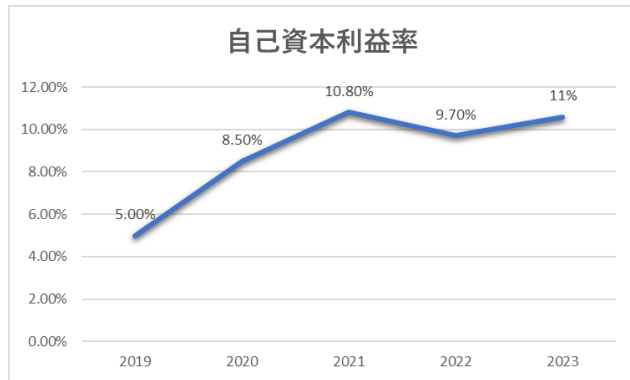
	賛成	反対	棄権
第1号議案 剰余金処分の件	○		
第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）6名選任の件			
田中 利一 氏	○		
齋藤 雅彦 氏	○		
林 宏一 氏	○		
矢島 史朗 氏	○		
楠 正顕 氏	○		
神吉 博 氏	○		
第3号議案 監査等委員である取締役2名選任の件			
山口 和也 氏	○		
林 安秀 氏	○		

上記の推奨をした理由

**○第1号議案：剰余金処分の件**

三菱化工機株式会社は、「株主への利益還元を優先すると同時に長期的な経営安定のために内部留保の充実も図る。」としている。1株当たりの配当金を見てみると、2019年からの5年間で配当金が1.6倍に増加している。配当性向を見ると、2019年からの5年間で45%減少しているものの配当性向は依然20%と高水準である。以上の2つの指標から『株主への利益還元』と『内部留保』という2つの目標を達成できているといえる。さらに、自己資本利益率を見ても、2019年からの5年間で自己資本利益率は2.12倍の10.6%に増えており、これからの利益向上も見込まれる。よって剰余金の処分に関しては適切であるといえるので賛成する。





## ○第2号議案：取締役（監査等委員である取締役を除く。）6名選任の件

三菱化工機株式会社の監査等委員でない取締役6名全員は任期が満了したが、6名全員が次期取締役の候補者となっている。6名のうち社外取締役は2名であり、1/3の基準を満たしているので問題はない。しかし、監査等委員以外取締役に女性取締役がないことは、ダイバーシティの観点から看過できない点であり、今後の改善に期待したい。

### ・田中 利一 氏（取締役社長）

取締役社長に就任した2021年からの自己資本利益率は10%前後の高水準を記録しているため、取締役社長としての経営手腕に問題はない。三菱化工機株式会社入社後は総務部門に長く携わり、2015年4月からは執行役員、2016年6月からは取締役を務めているため、経験や知見が豊富でありそれらを生かした企業経営や人事労務・人事開発に手腕が光る。今後も業績向上が期待できるため賛成とする。

### ・齋藤 雅彦 氏

三菱化工機株式会社入社後、経理及び企画部門に長く携わり、2017年4月から執行役員、2021年6月から取締役を務める。企業経営、法務・リスクマネジメントに手腕が光る。入社以降の経験と知見が豊富であるため、取締役としての責務を大いに果たすことができると考え賛成とする。

### ・林 宏一 氏

三菱化工機株式会社入社後プラント事業に長く携わり、2021年4月から執行役員、2022年6月から取締役を務める。当社グループ事業に経験豊富であり、環境・安全・品質、技術・開発・情報分野に手腕が光る。入社以降の経験と知見が豊富なため取締役としての責務を全うできると考え賛成とする。

### ・矢島 史郎 氏

三菱化工機株式会社入社後単体機械事業の製造部門に長く携わり、2019年4月から執行役員、2022年6月から取締役を務める。単体機械事業に対する積極的な意見と指摘に定評がある。環境・安全・品質、技術・開発・情報分野に手腕が光る。入社以降の経験と知見が豊富なため取締役としての責務を全うできると考え賛成とする。

・楠 正顕 氏（社外取締役）

現在三菱重工株式会社の執行役員かつプラント・インフラドメイン副ドメイン長である。取締役会にはすべて出席している。三菱重工株式会社執行役員としての経験と知見に基づいた経営全般の課題、各事業の課題、リスクと改善点に対する質問と意見に定評がある。企業経営と技術・環境・情報関連に精通している。三菱化工機株式会社の株式は保有していないため独立性が極めて高い。深い経験と知見を活かして取締役としての責務を全うできると考え賛成とする。

・神吉 博 氏（社外取締役）

三菱重工株式会社において研究開発業務に長く携わった経歴を持つ。その後、神戸大学教授として研究開発や指導に尽力する。ベンチャー企業の経営にも関与している。回転機械振動に関する専門知識を持ち、取締役会での発言と質問を的確に行う。前期の取締役会にはすべて出席した。当社の株式は保有しておらず独立性が極めて高い。技術関連の知見が当社の利益向上につながると考え賛成とする。

**○第3号議案：監査等委員である取締役2名選任の件**

三菱化工機株式会社の取締役監査等委員は常勤2名と非常勤2名の計4名で構成されている。このうち常勤1名が社内取締役監査等委員であり、他3名が社外取締役監査等委員である。75%が社外取締役であり、非常に独立性が高いといえる。さらに、女性監査等委員もいるためダイバーシティの観点から非常に評価が高い。今回2名の監査等委員が選出されるが、山口和也氏は続任、林安秀氏は新任である。

・山口 和也 氏

三菱化工機入社後、総務部や経理部、内部監査の各部門に長く携わった。2019年6月には取締役監査等委員に就任した。財務会計や法務・リスクマネジメントに手腕が光る。2023年期の取締役会にはすべて出席した。就任以降の5年間の財務会計報告の監査内容については全くの問題がないため今後も責務を全うできると考え賛成とする。

・林 安秀 氏（社外取締役）

三菱銀行に入行して以降金融機関に長く勤務しており、企業経営や財務会計の分野において手腕が光る。三菱化工機株式会社の株式は保有しておらず独立性は極めて高い。監査において責務を全うできると考え賛成とする。